街道と鉄道の世界遺産

The World Heritage of Highway & Railway

世界遺産の
巡礼路・交易路・鉄道・
運河・橋・乗り物など
35件

人と人、物、信仰をつなぎ
歴史を紡いだ「道」の世界遺産

EDING
CORPORATION

ピレネー山脈を越え、聖地
サンティアゴ・デ・コンポ
ステーラを目指す巡礼者。

Chapter 1

巡礼路と交易路の世界遺産

The World Heritage of Pilgrimage & Trade Routes

巡礼路と交易路の世界遺産MAP

01

サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路
スペイン、フランス

02

熊野古道
日本

03

シルクロード
中国、キルギス、カザフスタン

04

ネゲヴ砂漠の「香の道」
イスラエル

05

エル・カミーノ・レアル・デ・ティエラ・アデントロ
メキシコ

06

カパック・ニャン
ペルー、エクアドル、コロンビア、ボリビア、チリ、アルゼンチン

スペイン、フランス

サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路

Route of Santiago de Compostela

登録名 サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路
（スペイン1993年・フランス1998年）

中世から連綿と続く聖ヤコブが眠る聖地への道

巡礼の終着地点であるサンティアゴ・デ・コンポステーラの大聖堂。

上／サンティアゴ・デ・コンポステーラの大聖堂内部。右／巡礼路にはホタテ貝をかたどった道標が設置されている。左／近年は自転車や車を使う人もいるが、多くの巡礼者は徒歩で聖地を目指す。

九世紀頃、スペインのガリシア地方で、キリストの十二使徒の一人であり、エルサレムで殉教した聖ヤコブの墓が発見された。この発見を記念して墓の上には大聖堂が建てられ、この地にサンティアゴ・デ・コンポステーラの町が築かれた。ヨーロッパ中からこの町を訪れる巡礼者は、一二世紀には年間五〇万人にも達し、現在もローマ、エルサレムと並ぶキリスト教の三大巡礼地となっている。

巡礼路は、かつてのローマ軍の交易路が利用されており、ヨーロッパ中から網の目のように延びている。このうち、フランスのサン・ジャン・ピエ・ド・ポルからスペイン北部を横切る「フランス人の道」と、フランス国内の四つの道が有名である。

フランス人の道

ピレネー山脈の麓を起点とする「フランス人の道」は、巡礼者の八割以上がこの道を歩くという人気のコースだ。イベリア半島を支配していたイスラムの勢力から、スペイン北部を奪還した一二世紀以降に巡礼路として定着したもので、フランス人の巡礼者が多かったことから、このように呼ばれている。

巡礼路沿いには世界遺産であるブルゴス大聖堂が位置し、パンプローナやレオンなどの主要都市を通るため、見どころも多い。歩くと一カ月以上かかる道のりだが、アルベルゲと呼ばれる格安の巡礼宿が数多くあるため、安心して巡ることができる。

Information

サン・ジャン・ピエ・ド・ポル→サンティアゴ・デ・コンポステーラ

距離：約780km

通過都市：パンプローナ、エステーリャ、ブルゴス、レオン、ポルトマリンなど

パリからバイヨンヌまでTGVで約5時間半、同駅からサン・ジャン・ピエ・ド・ポルまで列車で約1時間20分。

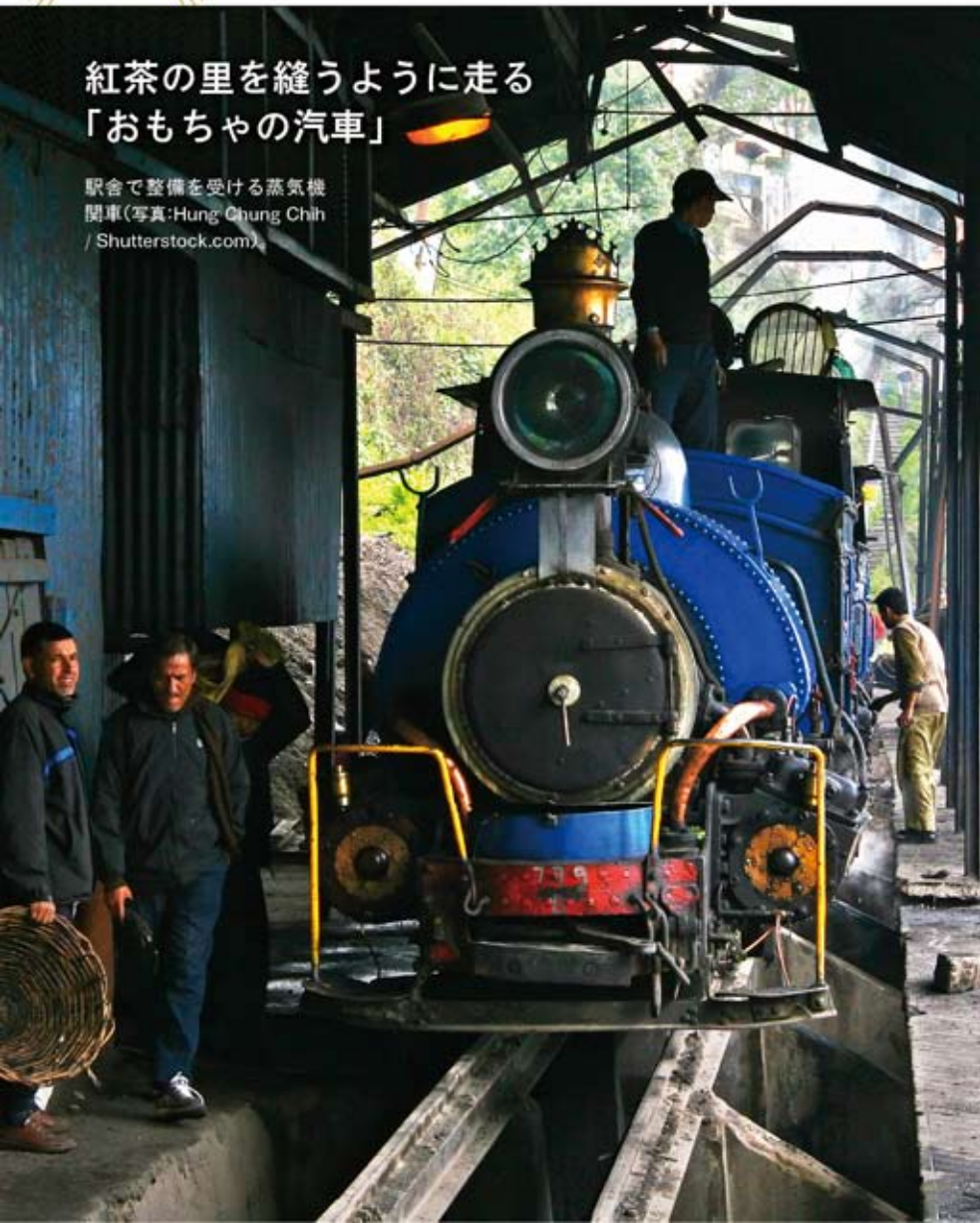
上／「フランス人の道」の入り口に位置し、巡礼者たちが必ず足を止める宿場町サン・ジャン・ピエ・ド・ポル。下／パンプローナの町並み。かつてはナバラ王国の首都であった歴史的な都市だ。

インド

ダージリン・ヒマラヤ鉄道

Darjeeling Himalayan Railway

登録名 インドの山岳鉄道群
（1999年［2005・2008年に拡大登録］）



紅茶の里を縫うように走る
「おもちゃの汽車」

駅舎で整備を受ける蒸気機関車（写真：Hung Chung Chih / Shutterstock.com）

Information

ニュー・ジャルパーイーグリー→ダージリン

路線長：88.5km
開通年：1881年
標高：114～2143m
ループ線数：3
スイッチバック数：6

コルカタからニュー・ジャルパーイーグリーまで夜行列車で約10時間。

インド北東部のダージリンでは、一九世紀からイギリスによる紅茶の栽培が行われており、冷涼な気候から、インドに住むイギリス人たちの避暑地としても発展した。ダージリン・ヒマラヤ鉄道は、標高二〇〇〇メートルを超えるダージリンと平野部を繋ぎ、紅茶と避暑客を輸送するためにイギリスが建設した、アジア最古の登山鉄道である。

開通を急いだイギリスは、トンネルや橋などの高コストな工事を避け、既存の山道の上を縫うように線路を敷設した。この結果、全区間の七割がカーブ区間となり、線路幅はわずか六一センチに制限されたことから、「トイ・トレイン」と呼ばれるほど小さな機関車が走ることとなった。

上／風光明媚なダージリンを走る列車。下／最も標高が高いバタシアループと呼ばれるポイントでは、約10分ほど停車するため、記念撮影などができる（写真：anandoart / Shutterstock.com）。

Column 2 遺していきたい世界の鉄道

現存する世界最古のモノレール

ヴッパータール空中鉄道／ドイツ

Wuppertal Suspension Railway

ヴッパー川の上空を走行するモノレール。総延長13.3kmのうち、およそ10kmの区間はヴッパー川の上に線路が架けられている。

1820年代のイギリスで、高い位置に一本のレールを通し、車輪の下に吊るした車体を馬力で牽引するという、初期の懸垂式モノレールが考案された。これを機に、ドイツ・ルール地方の工業都市ヴッパータールは、市内を流れるヴッパー川上空にこのモノレールの建設を計画したが、土地の獲得で行き詰まり、実現せずに終わっていた。

1880年代に入ると、ドイツ人技師のカール・オイゲン・ランゲンが、自社の工場内で運搬に使うための懸垂式モノレールを開発する。ランゲンは、この技術を民間の輸送に応用しようと働きかけたところ、一時は頓挫していたヴッパータールでのモノレール建設が決まったのである。1901年に開通したヴッパータール空中鉄道だが、今なお運行を続けており、現存する世界最古のモノレールとなっている。

Access

ベルリンからヴッパータールまで特急列車で約3時間50分、またはデュッセルドルフから列車で約30分。

Wuppertal Suspension Railway

右／空中のホームからモノレールに乗車する人々。左／下から見上げられることが多いためか、車両の底面にも広告が描かれている。下／西側の終点フォーヴィンケルまでの3.3km区間は、道路の上空に線路が架けられている（写真：Matyas Rehak / Shutterstock.com）。

オランダ

アムステルダムの運河

Canals of Amsterdam

登録名 アムステルダムのシンゲル運河内の17世紀の環状運河地区（2010年）

運河から望む聖ニコラス教会。船乗りの守護聖人とされる聖ニコラスは、オランダで特に崇敬されている。

オランダの黄金時代をしのぶ
美しい水運の町並み

Information

全長：約100km（165本）
建造年：1613〜1995年
架橋数：1281
主要運河：シンゲル運河、ヘーレン運河、ケイザー運河、プリンセン運河

スキポール空港からアムステルダム中央駅まで列車で約15分、または市内中心部までバスで約30分。

オランダの首都アムステルダムは、かつて小さな漁村であったが、一三世紀に村を流れるアムステル川に堤防が整備され、町の基礎が築かれた。

オランダがアジアの植民地を拡大した一七世紀、アムステルダムは貿易と金融の本拠地となり、世界屈指の港湾都市へと発展。それと同時に、言論や宗教においてはこの時代で最も自由な市民社会を築いていたことから、ヨーロッパ中の文化人が集まるようになったのである。市内には、増え続ける人口や資本に対応するため、中世の旧市街を取り巻くように町中に運河網が建設された。住宅は荷物を運び込めるよう、運河沿いにひしめくように建てられ、独特の景観を形作っている。

上／水路沿いに植えられた街路樹が、季節ごとに町を彩っている。下／細長い特徴的な外観の建物が、通りに沿ってすき間なく並んでいる。

マレーシア

マラッカのトライショー

Trishaw in Malacca

登録名 マラッカとジョージタウン、マラッカ海峡の古都群（2008年）

大量の花で派手に飾られた、オランダ広場のトライショー（写真：Faiz Zaki / Shutterstock.com）。

Information

主な乗り場：オランダ広場周辺
料金：20〜30リンギット（30分）
開発時期：1915年頃

クアラルンプールからマラッカまで高速バスで約2時間。

マレーシア最古の都市マラッカは、一五世紀に港湾都市として繁栄し、一六世紀から四〇〇年以上にわたってポルトガルやオランダなどの支配を受けた。西洋や中国の影響が色濃く残され、多様な建築物や文化が交錯するこの町で、特に目を引く乗り物が、派手な装飾で有名なトライショー（自転車タクシー）だ。

トライショーの起源は、明治時代の日本で誕生した人力車とされる。人力車は中国を経由して現在のシンガポールに伝わると、自転車を取り付けた現在の形に改良され、広く普及していった。現在、マレーシアのトライショーは自動車の普及によって都市部から姿を消したが、観光地では今も乗客を楽しませている。

上／中国やヨーロッパの文化が混在した独特の雰囲気を持つ、中国人街のジョンカー通り。下／電飾で一層賑やかになる夜のトライショー（写真：Tooykrub / Shutterstock.com）。

街道と鉄道の世界遺産

2015年4月10日　version1.0発行

ISBN978-4-902896-08-4

著作　株式会社 エディング
編集　乙原優子
デザイン　乙原優子
写真　Shutterstock
123RF

発行人　武井誠

発行　株式会社 エディング
〒162-0811　東京都新宿区水道町2-14 柴木ビル2F

【お問い合わせ】 eding@eding.co.jp

©Eding Corporation 2015
本書の無断転載、複製、頒布、公衆送信、翻訳、翻案等を禁じます。
一部または全部をアナログ化することは、個人や家庭内の利用でも著作権法により
認められておりません。

エディングの書籍についての新刊情報・詳細情報は、以下をご覧ください。
http://www.eding.co.jp/